

円山〔安養寺といふ、吉水大懺法院の故墟なり。慈鎮和尚棲給ふ事百練抄に見えたり。坊舎六宇、山崖に建続て、亭閣林泉玲瓏として洛東の佳境なり。○長寿庵左阿弥○勝興庵正阿弥○花洛庵清阿弥又端寮といふ○多福庵也阿弥○延寿庵連阿弥○多藏庵春阿弥○此中左阿弥には織田入道雲生寺道八の塔あり。これは信長の舎弟有樂の子なり。むかし顔輝の筆の達磨の像あり、道八替して云、

ふそくなれどわれがかたちにならしませむかしは達磨今は道八

わが影とながめながらも世のうきめしらずがほこそ浦山しけれ

磨も人も不知古坊主ヲ老人トラヘテ

成我影ト無跡可残置カト

虚 空 元 年 日

多藏庵の庭造は相阿弥の作、多福庵の書院の画は雪溪の筆、又境地に吉水の名泉あり」

今朝出し日はいつ帰るひがし山

羅

人